

# 2023 年度 学校法人梅花学園 事業報告書

2024年5月25日

学校法人 梅花学園

### 梅花学園の建学の精神

キリスト教精神に基づき、他者への愛と

奉仕の精神を備える自立した女性を育成する

### 教学の理念

梅花学園は、キリスト教精神に基づき、人間として自分の生きる道を見出してその道を歩む力を身につけると共に、多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ人を育てる。さらにのびやかな感性を養い、調和のとれた知性をもって社会に適応すると共に社会に貢献する人が育つように努める

### スクール・モットー

人にしてもらいたいと思うことは何でも、

あなたがたも人にしなさい。

(マタイによる福音書七章十二節)

## <目 次>

### I 法人の概要

1. 設置学校の所在地
2. 設置学校・学部・学科等の入学定員、入学者数および在籍者数の状況
3. 役員・教職員の概要
4. 学園の沿革

### II 2023年度事業の概要

#### はじめに

1. 教学充実、学生・生徒・園児支援の取り組み
  - (1) 大学
  - (2) 中学校・高等学校
  - (3) 幼稚園
2. 学生・生徒・園児の受け入れ
  - (1) 大学
  - (2) 中学校・高等学校
  - (3) 幼稚園
3. 財政健全化への取り組み
4. 教育環境整備
  - (1) 茨木キャンパス
  - (2) 豊中キャンパス

### III 財務の概要

1. 資金収支計算書、活動区分資金収支計算書
2. 事業活動収支計算書
3. 貸借対照表
4. 2019年度～2023年度の経年変化  
資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の推移
5. 活動区分資金収支計算書関係比率、事業活動収支計算書関係比率の推移
6. 貸借対照表関係比率の推移

## I. 法人の概要

### 1. 設置学校の所在地

<梅花学園 茨木キャンパス>

学校法人梅花学園 (<http://www.baika.jp>)

梅花女子大学／大学院 (<http://www.baika.ac.jp>)

〒567-8578 大阪府茨木市宿久庄2丁目19-5

TEL 072-643-6221 (代表)

<梅花学園 豊中キャンパス>

梅花高等学校 (<http://www.baika-jh.ed.jp>)

梅花中学校 (<http://www.baika-jh.ed.jp>)

梅花幼稚園 (<http://www.baika-jh.ed.jp/kindergarten/>)

〒560-0011 大阪府豊中市上野西1丁目5-30

TEL 06-6852-0001 (代表)

### 2. 設置学校・学部・学科等の入学定員、入学者数および在籍者数の状況

設置学校	入学定員	入学者数 (2023.4)	在籍者数 (2023.5.1)
梅花女子大学大学院 文学研究科			
日本語日本文学専攻（修士課程）	5	0	0
英語英米文学専攻（修士課程）	5	0	0
児童文学専攻（修士課程）	5	0	3
児童文学専攻（博士後期課程）	2	0	0
小計	17	0	3
梅花女子大学大学院 現代人間学研究科			
心理臨床学専攻（修士課程）	12	8	20
小計	12	8	20
梅花女子大学大学院 看護保健学研究科			
口腔保健学専攻（修士課程）	5	2	4
小計	5	2	4
梅花女子大学大学院 合計	34	10	27

設置学校		入学定員	入学者数 (2023.4)	在籍者数 (2023.5.1)
<b>梅花女子大学</b>				
文化表現学部	国際英語学科	30	19	99
	日本文化学科	30	24	137
	情報メディア学科	60	68	283
小計		120	111	519
心理こども学部	こども教育学科	60	42	232
	心理学科	55	63	275
小計		115	105	507
食文化学部	食文化学科	60	38	200
	管理栄養学科	40	33	148
小計		100	71	348
看護保健学部	看護学科	90	116	436
	口腔保健学科	70	44	242
小計		160	160	678
梅花女子大学 合計		495	447	2,052
梅花高等学校		405	275	799
梅花中学校		80	96	308
梅花幼稚園		60	37	135
学園全体 合計		1,074	865	3,321

### 3. 役員・教職員の概要（2023年5月1日現在）

#### 理 事（13名）

理事長	小坂 賢一郎	(2023年6月30日付退任)
1号理事（学園長）	近藤 十郎	
2号理事（学長）	長澤 修一	
（高等学校長兼中学校長）	菅本 大二	
（幼稚園長）	上田 規容子	
3号理事（評議員選出）	川端 澄子	河村 圭子
4号理事 （学識経験者又は本法人の教育に理解のある者）	小川 友次 (2023年7月1日より理事長就任)	吉岡 康博
	風早 完次	藤原 美紀
	平木 宏行	中谷 浩信

#### 監 事（3名）

監事	宮内 雅也
	森 仁美
	西山 奈津子

評議員（29名）

1号評議員（理事長及び学園長）	小坂 賢一郎	近藤 十郎	
2号評議員 (学長、学校長、幼稚園長及びその他役職者)	長澤 修一	菅本 大二	上田 規容子
	藤原 美紀	平木 宏行	田部 雅昭
3号評議員（教職員互選）	河村 圭子	林 有希子	井元 真澄
	市瀬 雅之	濱田 正夫	葉山 のぞみ
	増田 直美	中谷 浩信	三好 博昭
	中村 健一		
4号評議員（同窓会選出）	川端 澄子	垣内 範恵	深田 和子
	浦野 祐美子	山本 栄子	
5号評議員（学園関係者又は学職経験者）	深見 秀之	高田 太	戸田 誠一
	岩 直子	朝井 伸壯	神吉 邦彦

教職員（455名）

	大学	高校	中学	幼稚園	法人	合計
教育職	132	39	15	9	—	195
事務職 (教務職員含む)	23	5	1	1	16	46
小計	155	44	16	10	16	241
非常勤講師	159	46	9	—	—	214
合計	315	90	25	10	16	455

## 4. 学園の沿革

年 月	事 象
1878年 1月	梅花女学校 設立(大阪府認可)所在地:大阪市西区土佐堀裏町
1899年12月	財団法人 梅花女学校認可、設立
1913年 4月	梅花高等女学校認可、設立
1914年 4月	梅花女学校専門部(家政科・英文科 2年制)設置
1922年 4月	梅花女子専門学校(英文科)認可、設立
1926年 4月	梅花女子専門学校に国文科増設認可、設置
1930年 4月	この花幼稚園(後に梅花幼稚園と改称)設立
1938年 3月	この花幼稚園、大阪府から公認
1943年 4月	梅花女子専門学校に家政科増設認可、設置
1947年 4月	新制梅花中学校設置
1948年 4月	新制梅花高等学校設置
1948年10月	財団法人 梅花学園となる
1950年 4月	梅花短期大学英語科設置(茨木市)
1951年 2月	学校法人 梅花学園認可
1959年 4月	梅花短期大学家政科設置(茨木市)
1964年 5月	梅花女子大学(文学部 日本文学科、英米文学科)設置(茨木市)
1966年 3月	梅花短期大学英語科廃止
1975年 4月	梅花短期大学英語科設置(茨木市) 梅花高等学校外国語科設置
1977年 4月	梅花女子大学大学院文学研究科(修士課程)日本文学専攻、英米文学専攻設置
1981年 9月	梅花短期大学の所在地を茨木市に変更
1982年 4月	梅花女子大学文学部児童文学科設置
1987年 4月	梅花短期大学国語科設置
1992年 4月	梅花女子大学大学院文学研究科(修士課程)児童文学専攻設置
1994年 4月	梅花女子大学大学院文学研究科(博士後期課程)児童文学専攻設置
1997年 4月	梅花女子大学文学部比較文化学科、人間福祉学科設置
1999年 4月	梅花短期大学家政科を生活科学科に科名変更
2000年 4月	梅花女子大学文学部人間科学科設置 梅花短期大学英語科を英語コミュニケーション学科、国語科を日本語表現科に科名変更
2004年 4月	梅花女子大学文学研究科(修士課程)に人間福祉学専攻設置 改組改編により、梅花女子大学現代人間学部(人間福祉学科、心理学科、生活環境学科)、文化表現学部(国際英語学科、児童文学科、日本文化創造学科、情報メディア学科)設置
2006年 3月	梅花短期大学は、改組改編により梅花女子大学短期大学部に名称変更
2006年 4月	梅花女子大学大学院に現代人間学研究科を設け、従来の文学研究科から2研究科体制に改編 文学研究科の人間福祉学専攻および心理臨床学専攻を現代人間学研究科へ移行。また、日本文学専攻および英米文学専攻を日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻に名称変更
2009年11月	梅花女子大学文学部廃止
2010年 4月	改組改編により、梅花女子大学心理こども学部こども学科、心理学科を設置。新たに看護学部看護学科を設置
2012年 4月	梅花女子大学食文化学部食文化学科設置
2014年 3月	梅花女子大学現代人間学部廃止
2015年 3月	梅花女子大学短期大学部廃止
2015年 4月	梅花女子大学看護学部を看護保健学部に名称変更 梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科設置
2017年 4月	梅花女子大学食文化学部管理栄養学科設置 梅花女子大学大学院に看護保健学研究科口腔保健学専攻設置
2020年 4月	梅花女子大学文化表現学部日本文化創造学科を日本文化学科に、心理こども学部こども学科をこども教育学科に名称変更

## II. 2023年度事業の概要

### はじめに

当年度の5月から新型コロナウイルス感染症は5類扱いとなり、感染症が流行して4年が経過してようやく、本格的にコロナ禍前の日常生活が再開できるようになってきた。こうした中、幼稚園・中学校・高等学校・大学の各学校においては、いち早く対面授業を実施し、さらに、学外での活動の機会を加速させ、「チャレンジ＆エレガンス」のスローガンの実現に向けた教育活動を行った。

1月18日の創立記念日においては、2028年に学園創立150周年、2026年には豊中キャンパス移転100周年という記念すべき大きな節目を迎えるにあたり、150周年特設サイトを立ち上げ、また、キックオフ＆プレス発表会において、教育内容のさらなる充実と施設リニューアルの発表を行い、より魅力的な教育の提供およびITを利用したICT教育の促進と業務の効率化を図る為、大学・中学・高校においてはそれぞれに教育改革推進・IT推進部会を組織し改革を遂行した。

さらに、開設8年目となる梅花歌劇団「劇団この花」は、イギリスのミステリー作家「アガサ・クリスティ」の誕生を描いた公演を2月に上演し、歌劇団員の演技に多くの観客から喝采を浴び、勇気と希望を与えた。

具体的な取り組みについては以下のとおりであり、梅花全学での教育の質の向上およびブランド力の強化の取り組みを進めた。

### 1. 教学充実、学生・生徒・園児支援の取り組み

#### (1) 大学

学生の立場に立つ教育を通して、教育目標「チャレンジ＆エレガンス」を実現させるために以下の事業を行った。

##### ① 建学の精神の浸透

建学の精神の理解を深めるため、学生および教職員が日常の心の糧とする「年間聖句」を定め、礼拝（チャペルアワー）への積極的参加を呼び掛けた。また、宗教部長により『澤山保羅と愛なる女学校』と題した教職員研修会を実施した。

##### ② 教育・研究の充実

###### 1) 教育上の取り組みに対する経費補助

教育目標を確実に実現する真の教育力をもつ大学をめざし、「教育改革推進補助事業」として、教育上の優れた取り組みに対して経費補助を行った。

###### 2) 研究の活性化をめざすための研究助成

研究の活性化をめざし、個人研究費に加えて研究活動を公募し、積極的に研究を

行う教員に対して、審査のうえ研究費の助成を行った。

3) 授業改善および教育力の向上

教員の授業実践報告会や学生による授業アンケートなどを通して、教育の改善および教育力の向上に努めた。

4) 学びの一元化

建学の精神に基づく「仕事力ある真におしゃれな女性」の育成をめざすことを目標として、教養科目・主専攻科目・副専攻科目の学びの一元化を図った。

5) 学生の英語力の向上

「英語会話Ⅰ、Ⅱ」（1年次前・後期）において英検準2級の文法事項の事後学習指導を全クラスで実施した。「英語会話Ⅲ」（2年次前期）において英検準2級の会話文の指導を全クラスで実施した。

③ GCV（グローバル・コミュニケーション・ヴィレッジ）の活用と国際交流

1) 「初年次セミナー」内で GCV を訪問することを計画していたが、感染症対策に基づき、GCV の外国語担当者がプロモーションビデオを作成し、全学部学科の「初年次セミナー」内で活用した。GCV を活用する学生のニーズも多様化し、個々の学生にオーダーメイドの指導を実施した。

2) 留学希望者を対象に留学経験者からの体験談を聞く機会を設けた。また、異文化に触れる催しを企画して、ヴィレッジプログラムの充実を図った。

④ 産官学の連携

1) 全学生が、企業のもつ課題解決型の産官学連携を本年度は49件行い、新しい価値の創出などこれからの社会に必要な実践的学びを、積極的に推進した。

2) グランフロント大阪ナレッジキャピタル「The Lab.」を学生の学びを公開する場、教員の研究活動および実証実験の場として活用するとともに、企業との連携および、イベントの拠点として活用した。

⑤ 梅花歌劇団「劇団この花」

本学の学問と融合した文舞両道をめざす全国的にも類を見ない「劇団この花」は、謝珠栄客員教授の脚本・演出・振付・作詞によるエレガントな女性の生き様を描くオリジナルミュージカル『アガサ・クリスティ』の公演を、2024年2月23日、24日、25日に行った。さらに社会福祉施設や各種イベント活動においても公演を実施し、心身ともにエレガントな女性の育成をめざした。

⑥ 学生支援

1) 丁寧な学生支援

出席管理システムやクラスアドバイザー制度を活用して、学生の授業への出席状

況や学修状況の把握に努め、学生が抱える問題を早期に発見し、援助が必要な学生に対してはクラスアドバイザー等が面談を行い、問題の解決を図った。1年次生に対しては、入学直後および定期的に学科単位で新入生全員との面談を行い、学生一人一人の状況を把握することにより、抱える問題に応じた丁寧なサポートに努めた。

## 2) 学長キャンパスミーティング

6月20日に学長キャンパスミーティングを開催した。ミーティングには50人の学生が参加し、活発な意見交換が行われた。学生からの意見をもとに、各担当部署に対応を依頼した。2023年度は新しい給茶機、冷水器の設置、西日対策としてガラスの遮熱コーティング、コミュニケーションルームの可動式パーテーションの設置等を行った。

## 3) アセスメントテストの実施

1年次生および3年次生を対象にアセスメントテスト（「GPS-Academic」）を実施し、その結果をもとに個別に学修指導を行った。また、学科ごとにデータ分析し、全学的な報告会を実施した。

## 4) 就職対策

卒業後の就職対策として、各種の国家試験および教員採用試験等の対策講座を実施し、合格に向けて取り組んだ。また、MOS試験、秘書検定、日本語検定、TOEIC Listening & Reading IP テストなどの資格取得を推進し、合格者には受検料の補助を行った。

## ⑦ エレガントな女性の育成

### 1) マナー教育

エレガントな女性の育成に向けて、『梅花マナーブック』（改訂版）を基に「初年次セミナー」の授業でマナー教育に取り組んだ。

### 2) 美しい日本語教育

共通教育科目の必修科目「美しい日本語（話し方）・（書き方）」を通して学生の言葉の素養を引き上げ、また、挨拶の励行等に取り組んだ。

## ⑧ 大学機関別認証評価

第三者認証評価を受けるために日本高等評価機構に自己点検評価書およびエビデンス集（データ編と資料編）を提出した。その後、11月に実地調査を受け、当機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

## ⑨ 学部・学科の取り組み

文化表現学部

＜情報メディア学科＞

- 1) 大学・学科の広報活動および実践的教育の場として、企業とのコラボ企画や学外コンペへの参加を推進した。学外コンペでは学生が優秀な成績を残した。
- 2) 各種企業へのインターンシップ、病院・福祉施設等における医療事務研修にも積極的に取り組んだ。
- 3) 学修成果発表の機会として、「3 年次ゼミ活動報告会」や「年度末成果発表会」を開催した。

＜日本文化学科＞

- 1) 日本の歴史や文化に関する体験学習を通して、学生同士の親睦や教員との信頼関係を深める新入生対象の「京都研修」を行った。
- 2) 2年次前期の「問題発見・解決セミナー」の授業内で大阪青年会議所との産学連携事業を、1年次後期の「問題発見・解決セミナー」の授業内で小倉美術印刷株式会社との産学連携事業を行った。
- 3) 国内旅程管理主任者資格取得のための「国内旅程管理研修（東北文化歴史研修）」を行った。
- 4) 書道学習の成果を学内外に示す「書作展」を開催した。
- 5) 日本国文化学会主催の「春季講演会」「歴史・文学旅行」「秋季講演会」を行った。

＜国際英語学科＞

- 1) 2年次後期からの海外実習・留学に向けて「TOEFL-ITP」の受験を年4回、卒業後の進路選択を視野に入れた「TOEIC-IP」の受験を年2回それぞれ予定通り実施した。
- 2) 1、2年次生対象として、総合旅程管理主任者資格取得のために1週間の学内研修後に、ハワイ研修（9月4日～9日）を実施した。
- 3) 上級秘書士（国際秘書）資格取得のための学科専門科目「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」を新規開講し、それぞれ前期13名、後期10名の受講者があった。
- 4) 新規開設された国際ビューティスペシャリストコースにおける「メイクアップテクニックⅠ」に11名の受講生があり、「JMA メイクアップ技術検定3級」を全員取得した。資生堂茨木工場見学は4月のオリエンテーション期間内に1年次生全員で行った。
- 5) 水都大阪コンソーシアムのアカデミアに国際英語学科の3年次ゼミ（6名）が参加し、大阪市内の水辺の魅力を動画（YouTube）で発信するとともに、関西の7大学が参加する水都大阪アカデミア発表会において成果報告を行った。
- 6) 国際英語学科の「問題発見・解決セミナー」の授業において、大阪・関西万博に向けた電気事業連合会の取り組みについて、女子大学生の視点で様々なアイデアを出し、産学連携の取り組みとして最終プレゼンテーションを実施した。

心理こども学部

＜こども教育学科＞

- 1) 資格・免許の取得に向け、各種実習指導、教員採用試験(筆答試験、面接、模擬授業等)の対策、現場での実践に生きる演習などに積極的に取り組んだ。結果、公立保育園・幼稚園5名、公立小学校10名、幼保連携型認定こども園18名、私立保育園・幼稚園20名、児童養護施設等福祉関連施設5名、児童クラブ2名など子どもの保育・教育に関わる職を中心として、全学生の希望する就職を叶えることができた。
- 2) 茨木市立小学校のイベント・定期的な読み聞かせ、豊中市立こども園保護者会のイベント、箕面市私立幼稚園長会での講義、咲洲プレ万博「みらいのたからばこ」への参画、ニフレル職員に向けた研修など近隣各地から多様な要請を受け、教員、学生共に精力的に学外に出向き、大きな成果をあげることができた。こども学会活動がこれまで以上に学生主体のものとなるよう、学生とともに協議し、総会、新入生歓迎会の開催時期、持ち方の改善を図った。さらに、「こどもフェスタ」を復活し、大学のクリスマスイブニングと共に実施し、延べ900名を超える参加を得て大盛況であった。
- 3) 2年次生の「問題発見・解決セミナー」では、(株)パックイン・タカギと日本細菌検査株式会社の2社と連携し、新商品の開発や広報活動等に取り組んだ。グループ学習を主体とし、事前にディベートを通して論理的な文章構成や弁論の方法を学んだ後、企業の協力を得ながら企画書、プレゼンテーションの作成・発表に取り組んだ。
- 4) 1年次生を対象に、京都梅小路公園・京都水族館でフィールドワークを行い、親睦を深めるとともに、校外学習実施に向けた学びの機会とした。また、全学科学生対象にしたこども学海外研修をカナダにて行った。異国の文化、自然等に触れるとともに、保育・教育に関わる施設を見学し、システムを学ぶ等有意義な研修となった。
- 5) グランフロント大阪において、今年度で最終となる第24回絵本制作展を開催し、510名を超える来場者を得て盛会のうちに終了した。
- 6) 保育実習、教育実習の充実と就職支援をねらいとしてホテルグランヴィア大阪において実習懇談会を実施し、講演会、情報交換などを通して、実習先との連携を深めることができた。
- 7) 保育・福祉等に関わる複数名の教員が、茨木市保育士等キャリアアップ研修の講師を務め、官学連携に取り組んだ。

#### ＜心理学科＞

- 1) 基礎学力の向上とキャリアに対する動機づけを目的に、全学年に対してGoogleフォームによるプルミエプログラムを実施し、学生1人1人に回答のフィードバックを行った。また、クラスアドバイザーやゼミ担当教員は、学生の取り組みや成果を把握できるシステムを利用し面談に生かした。
- 2) 犬・イルカ・馬・ゾウを介して行うアニマルセラピー実習を行った。特にコロ

ナ禍や台風被害で中断を余儀なくされていた、多様な生物とのふれあい体験（イルカ等）を実施した。

- 3) 専門機関と連携して、学外施設へのセラピー訪問活動や実習、研修の場の開拓訪問活動を活発に行った。特に梅花幼稚園では大好評であった。また、地域連携企画として「ぱかぽこひろば」と協力し、ホースセラピートラベルイベントを企画し、本学オープンキャンパスで実施した。
- 4) 特別支援教育教員養成コースに音楽療育を加え、教育内容の充実を図った。また、特別支援学校教諭の養成を推進し、大学推薦採用試験合格者を輩出した。
- 5) 企業との産学連携として、1~3年次の各学年が、ルクア大阪（JR西日本SC開発）、（株）ハ木研、（株）ロゴスコーポレーションと提携し、商品の提案、現状の課題と今後の展望について発表した。特にアウトドアグッズを用いた防災訓練の提案では、地域の防災キャンپイベントに出展し、その成果を本学ホームページで紹介した。
- 6) 3年次生によるゼミ活動報告会や4年次生による卒論公聴会を対面とオンラインの両方で開催し、ゼミ活動報告会には低学年の学生の9割以上が出席し、ゼミ活動に対する意識を高めることができた。
- 7) 大学院では、臨床心理士養成と並行して公認心理師カリキュラムを実施して、実習内容と実習時間の管理体制の充実を図った。
- 8) 学部における公認心理師演習・実習の充実を図り、公認心理師受験資格における実習の場として、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を実施し、外部の参加者から好評を得た。

#### 食文化学部

##### ＜食文化学科＞

- 1) 調理基礎分野では調理技術向上のために補習を実施した。技術向上のため、学外コンテストへの積極的な参加を推奨し、複数の入賞を果たした。「ひるがの高原だいこん杯 だいこんおろしアートコンテスト」で1年次生が優秀賞を2件受賞、「お米メニュー・アイデアグランプリ2023」では調理ゼミ、ビジネスゼミから計3件の入賞、「全国学生・沖縄黒糖レシピコンクール」では食文化ゼミから1次審査通過、茨木市内3大学対抗 アイランドメニュー・グランプリは2年次生が優勝、第1回ご当地おむす美大賞では食文化ゼミが特別賞、ユースシェフ王料理大会2023では調理ゼミが最優秀賞受賞という結果を残した。
- 2) 実験設備を活用している調理科学・食育ゼミにより、東芝ライフスタイルアプリにおけるレシピ提供が行われた。また、レシピ開発に今後必要な調理家電への購入・設置を行った。
- 3) 日本アントナン・カーレム協会主催パリ美食コンテストを本学にて開催し、学生もコンテスト運営に参加し、プロの技術に学んだ。また、協会より、アントナン・

カーレムゆかりの資料が寄贈された。3月8日（金）～14日（木）には、なんばウォークのくじらパークにて、製菓ゼミ制作の「お菓子でできたパリの名所」の展示を行った。

- 4) 1年次生のフィールドワークとして、京都・福寿園にて碾茶を石臼で挽いて抹茶を点てる茶道体験を行った。
- 5) 産学連携による実践的な学びの場として、大阪府中央卸売市場、大水直売、音羽、飛騨蔬菜出荷組合、JAひだ、東芝ライフスタイル、茨木市と連携し、商品開発・販売・販促活動（レシピ開発）を行った。また、音羽鮓「ご縁福巻」の商品企画・販売、大水直売による「恵方巻」の商品企画・販売、東芝ライフスタイルアプリにおける「腸活レシピ」の提供、JA飛騨による「トマト・ほうれんそうレシピブック」については、梅花女子大学オリジナルのレシピブック作成が行われた。さらに、大阪府中央卸売市場、飛騨蔬菜出荷組合、JAひだ、株式会社明治、ケンミン食品株式会社、白ハト食品工業株式会社、一般財団法人大阪労働協会、日本細菌検査株式会社による、食材・食育・商品開発・流通・販売、安全管理に関する多様な授業が提供された。

#### ＜管理栄養学科＞

- 1) 1年次生には、学科教員による管理栄養士の業務や役割についての講演、および外部講師による給食施設の役割についての特別講演を実施し、管理栄養士資格取得の意識を高めた。3年次生の臨地実習に向けて、および全学年を対象に接遇マナー講習会を開催した。また、4年次生の臨地実習報告会、卒業研究発表会を開催し、3年次生にも公開して意識を高めた。
- 2) 管理栄養士国家試験合格に向けて分野別クラス別の国試対策講座を実施し、教員全員で国試対策を行った。4年次生37名中33名が受験し、合格率は66.7%であった。
- 3) 第4期生の就職活動支援に取り組み、内定率は94.6%、正規雇用率100%を達成した。
- 4) 社会貢献や産官学連携にも積極的に取り組んだ。
  - ・梅花新体操スクールの栄養指導の取り組み
  - ・旭松：高野豆腐を使ったレシピ考案
  - ・丸福珈琲店・ルクアイーレ・オリエンタルベーカリーとのコラボ：メニュー作成、販売
  - ・Mutterとのコラボ：Café Mutterでのイベント参加、うめコレで商品発表、クリスマスイブニングでコラボ商品販売
  - ・大阪府食育イベント「食育ワクワク EXPO」への参加
  - ・8大学連携学生プロジェクト：大学コンソーシアム大阪主催の地域連携学生フォーラム in Osaka 2023に参加、合同で活動内容を発表
  - ・第3回宝塚カレーグランプリへの参加

- ・茨木市との食育連携：栄養教育論実習の一環として実施

#### 看護保健学部

##### ＜看護学科＞

- 1) 学内演習・実習では、感染対策を徹底した。
- 2) 看護師・保健師の資格取得に向けて、1年次から「国家試験対策講座」を実施した。国家試験合格率は、看護師93.2%、保健師100%で、全国平均を上回った。
- 3) 地域住民・関係者・学生を対象に「病を乗り越え、さらにエレガントに～乳がん患者体験を活かした患者向け下着開発～」のテーマで公開講演会を開催した。
- 4) 学生の就職支援を進めるため、8月に病院就職説明会を開催し、多くの学生が参加したとともに、複数の卒業生が病院の説明に来校した。
- 5) 実習指導者会では、演習室を開放した自主練習の強化、地域生活実習について報告するとともに分野毎の分科会を実施し、連携強化を図った。
- 6) ホームカミングデイを開催し、看護学科卒業生と在学生の交流を図った。

##### ＜口腔保健学科＞

- 1) 第33回歯科衛生士国家試験対策として、補講と模擬試験を実施した（2023年9月～2024年2月）。2023年度卒業生68名の合格率は97.1%であった。
- 2) 養護教諭一種免許状は、履修を継続した3名が取得した。
- 3) 教育改革推進補助事業「地域と大学の連携による歯科健康教育プロジェクト」として、沖縄県の離島において、2・3年次生（9名）が、園児・児童生徒を対象に歯科健康教育を行った（2023年9月4日）。丹波篠山市（2023年4月22日）と茨木市（2023年10月21日）のイベントにおいて、3年次生（各2名）が歯や口についての個別相談ブースを担当した。
- 4) 口腔保健学会成果発表会を開催した（2023年12月9日、澤山記念ホール）。3・4年次生が臨床臨地実習の成果を、卒業生が就職先での活躍状況を、歯科健康教育プロジェクトメンバーが活動内容を、社会人大学院生が歯科衛生士としての経験や研究の成果をそれぞれ発表した。
- 5) 保護者会を開催した（2023年9月9日、本学）。1～4年次生の保護者80名が出席した。
- 6) 実習指導者会議を開催した（2023年8月10日、本学）。学外の指導担当者（17施設23名）と本学科教員が、2023年度後期の臨床実習について意見交換を行った。

## （2）中学校・高等学校

建学の精神に基づく教育活動を通じて、コミュニケーション能力を高め、円滑な人間関係を構築し、真に社会貢献のできる、人間性豊かな自立した女性の育成をめ

ざす。そのために、全教職員が建学の精神を共有し、「愛なる女学校」ならびに「チャレンジ&エレガンス」をテーマとして、日々の教育活動を行った。

また、新型コロナ感染症が、2023年5月に感染法上でインフルエンザと同等の5類感染症に移行されたことを受け、感染防止に最大限注意しつつ、コロナ禍以前同様の学校行事をめざして実施した。体育祭(7/12 Asue アリーナ大阪)では、従前の取り組みを見直し、熱中症対策を優先する新たな方法で実施を図った。

全ての専攻において目標設定と振り返りの機会を設け実施する計画については、中学校・高等学校教育改革・IT教育推進部会上ですべての専攻についての現状把握を検討し、同部会で議論を進めている2025年度開始の新たな5コースの設定に反映した(PDCAサイクルの実践)

## ① 学力向上への取り組み

- ・教育ソフト(スタディサプリ)を導入しiPad(中学及び高校国際教育専攻)、クラムブック(高校国際教養専攻を除く専攻)を利用することにより生徒の学力に応じた指導を図ったが、前掲の教育改革・IT教育推進部会において、2024年度も視野に入れたうえで2025年度以降の新体制でのより充実したICT教育のあり方について議論を進めた。
- ・大学進学に向けて実力テストを実施し、その結果は内部推薦や指定校推薦の判定材料としても利用した。また、高校特待生の継続にも実力テストの結果を用いた。
- ・大手進学塾「河合塾」との連携  
特進S専攻において長期休暇中に実施する受験講座を大手進学塾に委託し、進路実績の向上を図った。
- ・中学において英語、数学を習熟度別のクラス編成で授業を実施した。

## ② 英語教育の充実への取り組み

- ・外部派遣のネイティブ講師や留学生とのアクティビティーおよびディベートの研修(English Communication Day)を総合進学専攻の高校1年生(7/10)・2年生(7/11)において実施した。国際教養専攻以外のリベラルアーツコースにおいて実施する計画については、在校留学生との交流の機会などはあったがアクティビティーおよびディベートの研修は実施できなかったため、2024年度はその機会を設ける。
- ・実用英語検定(英検)を中学生・高校生全員受験し、中学卒業時に3級、高校卒業時に特進S専攻・国際教養専攻は2級、他の専攻は準2級の全員取得を目指した。結果、中3卒業時の3級以上取得者は63%、高3特進S・国際教養専攻で2級以上は58%、特進S・国際教養専横以外で準2級以上の取得者は29%であった。
- ・ECCと連携し希望者に英検対策講座、夏期・冬期集中英会話レッスンを実施す

ることで英語の4技能運用能力強化を図った。

- English Only Space を活用することで、さらなる英語力の向上を図った。
- 高校国際教養専攻の学期留学(4/17~7/1までの76日間)は、高校2年生22名と同窓会グローバル人材育成プロジェクトで選ばれた高校1年生3名が参加しニュージーランドで実施した。また、希望者に対して実施する夏期海外英語体験学習(7/23~8/5までの14日間)は、オーストラリア・タウンズヴィルで実施した。
- イングリッシュシャワーとして中庭でBBCニュースを流し、また、食堂に設置した80インチテレビに常時CNNjのニュースを放映することで、常に英語を耳にする機会を作りリスニング力のさらなる向上をめざした。
- 中学1年生は、校内で外国人講師による「英語による体験授業」(Job Experience in 梅花)(3/11)を実施した。
- 中学2年生は、福島県にあるBritish Hillsで実施してきた英語宿泊研修(インターナショナルキャンプ)(5/24~26まで2泊3日)を和歌山市で実施し、外国人講師のレッスンをより多く効果的に受講できた。
- 中学3年生の修学旅行は九州(10/17~20)で実施した。また、事前学習として調べ学習を行い、調べた内容をプレゼンテーションする機会(7~9月)については、各学級で行い、実際の修学旅行先でも、その成果を発揮することができた。
- English Elite Memberとして英検2級以上を取得した生徒にMemberの称号を与え、週1回Elite Memberの特別レッスンを実施することで英語に対して自信と誇りを持てるようにした。梅花の英語のリーダーとしての活躍を期待するとともに、英検取得のモチベーション一つとして活用できた。中学20名 高校94名に称号を与えた。

### ③ 教師力向上に向けて

- 安定したより良い教師力を育成するため、PDCAサイクルを構築すると共に、教員研修の有効な実施法を研究し実施する計画については、学内で組織的に実施することはできず、学外で行われたハラスマント、不登校生徒対応の研修会にごく少数の教員が参加するにとどまった。2024年度は女子大学心理学科教授を招聘して特別支援教育、とくに合理的配慮のあり方に関する校内研修会を計画し、その実施に注力する。
- ICT教育やeラーニングに向けてICT教育プロジェクトチームを継続する。研究授業を続け、ICTを使った授業展開を多くの教員へ普及させる計画については、ほとんど実現できなかったため、現在、教育改革・IT教育推進部会でICT教育を授業で展開する方策検討し、実施する計画を立案中である。
- 教員の自己評価、生徒による授業評価を1学期および3学期の年2回実施する

予定であったが1学期末の1回のみ実施し、学外者も含めた関係者評価を経て、その結果を検証することを通して教学の充実を図った。また、結果をホームページ上に公開した。

- ・平素の危機管理システムの充実を図り、火災や地震などの災害時の対策として訓練・研修を3回(4/26(火災避難訓練)・7/19(放水訓練)・9/1(大阪880万人訓練、冊子配布))実施し、万が一の緊急時に備えた。また、中学ではSNS防犯教室(7/10)を実施した。

#### ④ 専攻ごとの特色を活かした特別プログラムの実施した（高校）

##### 総合進学専攻

- ・宿泊研修（1年生5/24～26）：コミュニケーションキャンプとして仲間づくり、コミュニケーション力向上を目指したプログラムを実施した。（滋賀県高島市）
- ・総合学習の時間を利用し「生け花」「茶室体験」「着付け」等を実施し、日本文化を理解や、礼儀作法を身につける事ができた。また、日本語検定を必修受験とし合格に向けた対策講座を実施した。
- ・従前よりも、より大学進学を意識しクロムブックやiPadを用いてスタディーサプリを用いた小テストや自学自習の時間を新たに作り授業改革を行った。

##### 特進S専攻

- ・勉強合宿：1年生3回(5/24～26・8/21～23・3/20～22)、2年生2回(8/21～23・3/20～22)の合宿を行い、学習強化と大学受験に対するモチベーションを高めた。
- ・長期休暇期間の特別講座：弱点克服やレベルアップを図り、目標の達成をサポートした。
- ・大手進学塾「河合塾」と連携して、長期休暇期間に特別講座を実施し、大学受験に対する実践力の向上を図った。（夏・冬・春の3期実施 各期高校1・2年：国・数・英 各7コマ、高校3年：現代国語・古典・英語 各7コマ）

##### 国際教養専攻

- ・宿泊研修（1年生5/24～26）：イングリッシュキャンプとしてECC講師陣を中心に英語オンリーの研修を実施した。（滋賀県高島市）
- ・学外の留学生とのGlobal Village Program（異文化協働体験型研修）（1・2年生11月）：校内でコミュニケーション能力向上の実践の場として留学生との研修を検討したが、実施できなかった。2024年度は在校の留学生との交流を深める親睦会等の開催を検討中である。
- ・学期留学：2年生22名と1年生3名が4/17～7/1までの76日間ニュージーランドでホームステイをしながら現地校で学んだ。

- ・英語読み聞かせ（3年生3学期）：土曜朝の読書の時間を利用して中学1年生に英語で絵本の読み聞かせを行う予定であったが、中学との連携が図れず実施できなかつたため、2024年度は実現に向けて早期からの連携調整を図る。
- ・Global Village International Preschool と連携しオールイングリッシュの保育体験を予定したが日程調整が出来ず実施できなかった。この点についても、2025年度からの新コース体制におけるキャリアデザインコースの子ども教育分野の課題として実施に向けて検討を進める。

#### 医療看護専攻

- ・看護学特講において、2年生は年間を通して現役医師（市立枚方病院の医師）から医療看護に関する講義を実施した。また、学期に2回程度医療の専門職講師による特別講座を実施(6/10,10/28,1/27など)実施した。3年生では梅花女子大学において高大連携の講義・実習を、年間を通して受講した。
- ・普通救命講習受講（1年生7/24）：豊中市消防局から講師を招聘して豊中キャンパスにて受講した。
- ・オリジナルの実習ノートを作成し、記録を取る習慣を身につけるとともに、文章表現力を養った。

#### こども保育専攻

- ・梅花幼稚園での保育体験：平常時の保育以外に遠足(4/28五月山・10/24芋掘り)、クリスマス会(12/19)等の行事に参加して保育の現場を学んだ。
- ・1年生は近隣幼稚園(11/15～16)で、2年生は近隣保育園(7/10～11)でのそれぞれ2日間の保育実習を実施し、将来の仕事に対する意識を高めた。
- ・ピアノ発表会（2年生2/24、3年生6/26・11/25）：音楽室・円形講堂にてレッスンの成果を披露する場を設けた。
- ・実習ノートを梅花オリジナルで作成し、記録を取る習慣を身につけるとともに、文章表現力を養った。
- ・Global Village International Preschool と連携しオールイングリッシュの保育体験を計画したが実施できなかった。この点について、2025年度からの新コース体制におけるキャリアデザインコースの子ども教育分野の課題として実施に向けて検討を進める。

#### 舞台芸術専攻

- ・宝塚歌劇団の公演(1・2年生1/23星組公演)など、プロのステージを鑑賞することで、表現力の向上をめざす。卒業公演等へ向けてのモチベーションの維持を図った。
- ・芸術発表会“Dream Fest”を梅田芸術劇場シアタードラマティにて開催(11/23)した。コースの取り組みやクラブ活動の発表の場として、一般に広く知らう機

会となった。

- ・卒業公演：澤山記念講堂にて卒業公演を実施(12/16)した。卒業生自らが演技のみならず、公演全体をプロデュースすることで、3年間の総まとめを行うことができた。

#### 調理・製菓専攻

- ・近隣の飲食店でのインターンシップを実施し、職に対して考える機会として計画したが、コロナ禍の影響もあり実現しなかった。飲食店でのインターンシップは高校生の受け入れ先も少なく2024年度は計画しない。その代替として、有名菓子店などの飲食業に携わる講師を招聘する時間を設けたいと考えている。
- ・調理製菓スペシャルプログラムとして、ケーニヒスクローネや叶匠壽庵など老舗有名菓子店の出張実習や現地実習を実施する事により、菓子作りや職業に対する認識(6/16、6/23 梅花女子大学、12/15 大阪調理専門学校、2/16 辻調理専門学校)を高める事ができた。
- ・料理検定、菓子検定（辻製菓専門学校主催）受験(2・3年生)により、お菓子について知識や興味を高めた。
- ・食物調理技術検定を受検し、1年生は4級、2年生は2・3級の全員合格を、また、3年生は準1級の合格を目指して掲げたが、2年生の3級指導のみ実施した。

#### アートデザイン マンガ・イラスト専攻

- ・梅花女子大学や他大学芸術系学部との連携を図り、学期ごとに特別授業を実施(4/22)した。
- ・作品展(8/4～7)・卒展(1/26～29)の出品に向け、「総合的な探究の時間」や「HR」を利用して、グループでの大型作品の作成やIllustrator や Photoshop を用いたデジタル作品の制作を行った。
- ・コンクール（大阪私学美術展・世紀のダ・ヴィンチを探せ！高校生アートコンペティション）に出品し、各自のモチベーションを上げ、生徒の資質向上を図った。大坂私立美術展では2年生の生徒が優秀作品に選ばれた。
- ・高2の美術特講において年間を通じて梅花女子大学の6学科から講師が派遣され高大連携授業を実施した。

#### ⑤ シリコンバレーラボの活用

- ・プログラミング教育の充実を図り、論理的思考力の醸成に努めた。シリコンバレーラボでは、昼休み・放課後に情報科の教員が常駐しプログラミングの指導を行った。中学生がロボットプログラミングコンテスト“Robo RAVE 大阪大会”に出場し、中学部門で優勝することができ、スキルアップが図れた。
- ・中学で Pepper IoT チャレンジプログラムに参加し、Pepper と IoT を組み合わせ

てプログラミングを行うことで、スキルアップを図ることを計画したが、難易度が高くレゴブロックを用いたプログラミングに変更して実施した。プログラミングを班対抗で実施することで、論理的思考の醸成と共に、集団でのコミュニケーションの向上が図れた。今後もレゴブロックを用いたプログラミングを実施する。

- ・中学の「技術・家庭」高校の「情報」の授業や「リベラルアーツウィーク」においてプログラミングの授業を行い基本的なプログラミングのスキルを醸成した。

#### ⑥ 修学旅行の充実

- ・高校ではコロナ禍で中止していた海外コースを復活し海外（ハワイ 10/17～21）と国内（北海道 10/16～20）の選択制として実施した。
- ・中学はコロナ禍により海外コースは中止とし、九州コース（10/17～20）を代替えとして実施した。長崎浦上天主堂で礼拝を守るなど梅花独自のプログラムを実施し、満足度向上を図った。

#### ⑦ 中学総合学習等での取り組み

各学年で調べ学習を中心に行い、情報を収集・整理し発表することで生きる力を養った。また、全学年でマナー講座を受講することで、梅花の品位を体現できる生徒育成をはかった。さらに、全学年歌劇鑑賞会（6/21 宝塚歌劇星組公演・2/24 劇団この花公演）を実施することで情操教育の一環とした。

#### ⑧ 高大連携の充実（Liberal Arts @ BAIKA）

梅花独自の魅力ある授業をめざし、梅花女子大学との高大連携授業科目の充実を図った。

- ・高校2年生高大連携選択科目：「情報メディア入門」（受講者 43 名）・「造形デザイン」（受講者 17 名）
- ・高校3年生高大連携選択科目：「心理学入門」（受講者 71 名）
- ・高校2年生「看護特講」「調理・製菓特講」を学期に1回程度、高校3年生「看護特講」通年の授業を茨木エレガンスキャンパスにて実施した。
- ・高校2年生「食育入門」「保育特講」、高校3年生「食品衛生学」「保育特講」の授業を豊中キャンパスで通年実施した。

#### ⑨ 芸術作品展・卒展の実施

グランフロント大阪北館・アクティブスタジオにおいて、芸術選択授業・高大連携授業・クラブ活動で創作した作品を展覧する「芸術作品展」（8/4～7 来場者総数約 350 名）を実施。また、卒業生を中心とした生徒の美術や書道など作品の展覧会「卒展」（1/26～29 来場者総数 353 名）を開催した。これにより、生徒の情操教育・感性の向上、モチベーションの維持と共に、梅花ブランド力を広く

一般にアピールできた。

⑩ 校外チャリティイベント & 入試説明会の実施

1day(6/18 グランフロント大阪北館)、2day キャンパス(6/3,4 エキスポシティ)、および、うめコレ 梅花エレガансコレクション(9/23 グランフロント大阪北館)と学校説明会を組み合わせて開催した事により、出演者のモチベーションの持続や成長と共に、広報面においても勢いのある「梅花」をアピールできた。

⑪ 中学・高校第10回山川登美子短歌文学賞の実施

中学・高校在校生を対象とした山川登美子短歌文学賞を継続実施した。短歌教育により言葉の感性を磨き、美しい日本語を考える機会とできた。また、この短歌文学賞を通し、明星派の歌人、山川登美子の文学的業績を顕彰できた。

⑫ 不登校生への対応強化

高校の不登校生徒を対象に「北館教室」を継続し、保護者と担任、カウンセラーと連携して生徒一人ひとりが登校や進級に対して意欲的に取り組める環境づくりを行った。

⑬ 新体操部の充実

新体操部に学内外のイベント参加してもらうことでより梅花ブランドのさらなる充実を図った。クラブ活動だけにとどまらず 2020 年度に開設した「梅花新体操スクール」との連携により選手育成に力を入れた。結果、大阪新体操選手権個人で優勝・準優勝や、近畿高校新体操選手権大会個人総合で 6 位入賞やなどを果たした。

⑭ 制服の改定

より魅力的な制服にするため、中学・高校の夏制服を改定した。また、新たにパンツスタイルを導入し制服の選択肢を増やした。2026 年の春をめざし、豊中移転 100 周年に向けて制服改定のための検討委員会を立ち上げ議論を開始した。

### (3) 幼稚園

現今の社会情勢を踏まえ、教員一人一人が教育者として幼児教育についての研究を重ね、日々目標をもって保育実践に努めた。

教職員の保育力を高め、園児・保護者をはじめ地域社会からの信頼を強固なものにするため、教育研究や諸施策の充実を図った。5月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行されたのを機に、併設校である大学・高等学校・中学校や地域社会との連携が少しずつ取り戻され、本園の教育理念を生徒・学生・地域に伝えることがで

きた。

① 教師の保育力向上

本園の教育理念に対する各教師の理解を深め、園内研究会を実施して第三者評価の機会を持つ一方、園内教師同士のコミュニケーションをしっかりとり、保育向上に努めた。園内研究会では、専門講師を保育アドバイザーとして招聘して各クラスの中心課題に沿った実践保育の指導を受け、また各クラス担任も他クラスを参観しあい、午後からは反省批評会をもち保育の方向性を検討することに努めた。

② 保育関係者間の連携強化

大学の幼稚園教員免許課程であるこども教育学科と連携を取り、6月に教育実習を実施し、本園の幼児教育観の理解や幼児教育に対する知識を深め、共通理解の基で相互連携を図れるよう努めた。また、高校の子ども保育専攻の生徒が幼稚園への興味や意識が高められることを目標としての、保育見学や実習の受け入れも昨年度よりはできたので 2024 年度も引き続き受け入れをしていきたい。

③ 子育て支援の強化

預かり保育や、キンダーカウンセリング等の専門分野からの支援は充実させることに加え、地域親子の子育て支援への取り組みにも、コロナが緩和させた以降は積極的に PR ができた。

預かり保育では、通常保育日は園の行事日を除いてほとんど毎日実施し、夏休み期間中は、7月24日から8月10日までと、8月28日から31日までの2期に分けて、春休みは3月21日～3月29日まで実施した。更なる就労家庭の増加に伴い、次年度は冬休み期間も預かり保育を実施する。子育て支援関連では、臨床心理士の配置も継続し、月1回の発達相談日を設け、子育てや子どもの発達に悩みを持つ保護者の支援に協力した。

④ 危機管理体制の強化

園児の登降園時や園舎内において各教員が安全確保への責任意識をしっかりと、園全体としての教員間の連絡を密にとることにより、危機管理体制の強化に努めることができた。消防署員の派遣を依頼しての年二回の防災訓練を実施することで園児ならびに教員、保護者が速やかに避難し、身の安全を確保できるよう備えた。保育室に設置の各園児の防災ずきんの使い方や避難経路等を確認し、災害時の身の安全確保への認識を強化した。さらに大阪府警に指導員の派遣を依頼し「不審者から身を守る」指導を受け、不審者に対する危機管理

意識も高めることができた。秋には年長児対象に「交通安全教室」も実施し、疑似横断歩道や工事現場を設定して交通安全への意識も高めた。また園内に防犯カメラの設置も完了し、園児の安全を第一に考えて行動できるよう教員間の連携強化にも努めた。

## 2. 学生・生徒・園児の受け入れ

### (1) 大学

#### ① 大学および学部・学科のセールスポイントの訴求

大学のプランディング向上のためのキャッチフレーズ「Challenge & Elegance」「仕事力ある真にオシャレな女性」を育成するため、大学全体や学部・学科の取り組みや学びの内容を受け取る側の目線で表現し伝えることができた。さらに2024年度より大きく学びの内容が変わる「主専攻」「副専攻」「教養科目」からなる学びの一元化を通じ、ワンランク上のキャリアを目指す学びへと進化する内容を一点集中で広報展開した。また、創立145周年ロゴマークは全ての印刷物に使用し広報展開した。

#### ② パンフレット

大学案内の表紙を中心にハーフモデルチェンジし、「梅花女子大学」をより一層エレガンス感、おしゃれ感のある大学として打ち出すことができた大学案内となった。さらに梅花女子大学の個性・特徴・魅力を受験生に具体的かつ分かりやすく伝えられる内容となった。また、「梅花エクスプレス」などをデジタル化し、Web上で展開した。

#### ③ ホームページの展開

ビジュアル重視の考え方を維持しつつもコンテンツを能動的に展開した。Web広告も積極的に実施し、さらにはSNSとの連動や動画配信を強化することによって拡散効果を図った。

#### ④ 卒業生との連携

卒業生との繋がり強化策として、卒業生を対象にしたランディングページをホームページ上に新設した。様々な情報の発信により梅花ファミリーとしての連携を深めた。年度末には卒業生、在学生のみを対象とした「梅花ファミリーオープンキャンパス」を開催したところ盛況であり、幅広い年齢層の卒業生が来校し、連携を強められた。

## ⑤ マス広告の展開

テレビCMを本学のブランディング広告の重要な柱と位置付け、5月～7月に第1弾を放映した。当年は新バージョンCMを制作し、7月上旬より新バージョンを放映し、第2弾の放映は11月～3月に行った。エリアは関西、岡山、高松において放映し、認知度アップを目的とした。また、交通広告は大阪モノレールには中吊りを年間掲出した。さらに北大阪急行車両連結部分枠でも年間掲出を行った。

## ⑥ 進学相談会への参加

新型コロナウィルス感染症も減少し、進学相談会（会場形式）および高校内ガイダンス（高校内実施）ともにコロナ禍前と同様に参加できた。4月～7月中旬くらいに多く実施され、直接生徒と接する貴重な機会となった。また、地方開催の進学相談会、高校内ガイダンスの前後はその地域の高校にアポイントメントを取り可能な限り訪問できた。

## ⑦ DMを中心とした受験生へのダイレクトな広報展開

直接受験生へアプローチすることが可能なDM広報には当年度も力点を置いて実施できた。具体的にはオープンキャンパスの案内DMは、各開催日の2週間前に到着するよう送付した。新たな取り組みとして「AI出願予測システム」を当年度より導入しているため、それを用いたより細かいセグメントをした上で、個々の対象者により効果的と思われる情報を届け、アプローチすることができた。さらに大手予備校の受験サイトにもバナー広告を4月～12月までの9ヶ月間掲出した。

## ⑧ 高等学校との連携強化

梅花高校をはじめとした教育連携校を中心に親密な教育連携を行った。梅花高校に対しては高大連携授業や単独の大学見学会などを行い、加えて大学からの情報提供として様々な印刷物、ちらし、イベント案内等を生徒に対して積極的に配付した。さらに梅花高校内で保護者に対して梅花女子大学を紹介する機会を設け、学内推薦入試等の案内を実施した。また、大学の様々な情報を発信する目的で設置した梅花高校内のインフォメーションデスクでは、生徒たちがいつでも気軽に本学についての質問等ができる体制を維持した。さらに外部の教育連携校を増やすべく主に私立高校を中心として、学長によるトップセールスを実施した。

## ⑨ 塾・予備校との関係強化

教員対象入試説明会参加の案内などを塾、予備校へも郵送して積極的にアプローチした。中高と共に開催する塾教員、高等学校教員を対象とした合同入試説明会は、昨年以上の参加者があった。

## ⑩ オープンキャンパス

年間合計 10 回のオープンキャンパスを実施した。地方からの動員を目的としたバスツアー「岡山・香川方面」「和歌山方面」も行った。

6月のオープンキャンパスでは、屋台の出店を招いたり、キッチンカーを呼んだりして、お祭り風のオープンキャンパスにした。さらに 7 月には毎年学生部が主催する「ゆかた祭り」と共催で授業見学会を行い、多くの高校生の参加があった。

学外イベントとしては、グランフロント大阪ナレッジプラザでの梅花中学校、梅花高等学校との共催である「エメラルドパフォーマンス」「うめコレ」を実施し、加えてエキスポシティ「光の広場」での 2day キャンパスも実施した。

## (2) 中学校・高等学校

### ① 2025 年度高校改組の取り組み

2025 年度高校入学生から新たなコース編成を実施するにあたり、カリキュラムや行事等の見直しを行い、魅力ある梅花独自のプログラムを構築することを目的に改革推進委員会を立ち上げ議論を深め、新たな 5 コース編成を決定した。実施のための準備活動を行うと同時に、先行して特待生度が新しく魅力的になることの告知広報を始めた。

- 特待制度の刷新 / コース編成 / 探求活動の充実

### ② 入試広報体制の強化

塾・公立中学校への訪問については、法人企画部との連携を強化し、合理的な計画を策定する。特に近隣の徒歩・自転車通学圏内からの志願者増を図るために、大手塾だけでなく、近隣の中小の塾についても関係強化を図り、信頼関係を築いた。

### ③ 募集対策行事の充実

校内での高校入試行事は「オープンキャンパス」6回、「入試説明会」3回の年 9 回を、中学入試行事は「オープンキャンパス」6回、「プレテスト」3回の年 9 回を計画通り実施した。さらに校外での行事として「ナイト説明会」や「うめコレ」、「1 day キャンパス」等のイベントをグランフロント大阪北館・ナレッジプラザで実施した。

校内での入試行事では、専属アシスタントとして活動する生徒（梅花 May's）を導入し、本校のアピールを強化した。

### ④ 塾対象説明会

ホテル阪急インターナショナル(6/13)にて 1 回、校内(6/14・9/8・10/5)にて

3回の年4回実施した。塾の教師の利便性を図ると共に、梅花の教育の広報とブランド力向上をさせた。

##### ⑤ ホームページの充実

学園全体の統一的イメージに沿ってホームページを更新した。常に新しい情報が提供できるように「梅花ダイアリー」等の更新の頻度を上げ充実を図った。また、スマートフォン対応への充実を図り、さらに、常に閲覧者の分析を行い、効果的なホームページ運用をめざしたが、閲覧数の増加には至らなかった。2024年度以降は豊中移転100周年および学園創立150年を迎えるに当たって、学習内容及び教育環境のリニューアルを早急に推進し、ホームページなどの媒体での広報活動に引き続き取り組む。

##### ⑥ Web広告および公式ツイッターの実施

パソコンやスマートフォンの普及を鑑み、Web広告・公式ツイッターを用いることで、本校ホームページへ導き注目度アップを図った。

##### ⑦ スクールバスの運行

豊中キャンパスー少路駅間にスクールバスを運行し、大阪モノレール沿線および少路駅周辺地域の生徒募集に繋げた。中学生利用者54名 高校生利用者96名(4月調べ)

##### ⑧ 小学生対象プログラムの充実

- ・第12回小学生英語暗唱大会「BAIKA CUP」を7月22日に実施した。  
英語教育に対するイメージアップおよび入学者の確保に努めた。【参加者の入学3名】
- ・こどもミュージカルレッスンの継続  
2016年度から開講している小学4~6年生対象のこどもミュージカルレッスンを実施した。【参加者の入学4名】
- ・キッズレイダースの継続  
小学3~6年生の児童を募集し、チアリーディングを通して梅花の良さをアピールした。【参加者の入学3名】
- ・Kids Englishの継続  
2018年度から開講している小学4~6年生対象のKids Englishを3クラス編成で実施した。参加を有料化し、より行き届いた質の高いレッスンを提供できた。  
【参加者の入学16名】
- ・新体操スクールの充実  
新体操部を強化することで各種大会において入賞を果たし梅花ブランドのさら

なる充実を図れた。クラブ活動だけにとどまらず「梅花新体操スクール」と連携することで選手の育成に力を入れた。【参加者の入学 2 名】

- ・プログラミングキャンプの実施

シリコンバーレーラボを利用して、コンピュータやプログラミングなどに興味関心を持つもらうとともに、論理的思考力育成のための特色ある教育をアピールする計画を立てていたが、実施できなかった。

### (3) 幼稚園

- ① ホームページによる積極的な広報活動

保育の様子やその内容説明を通して、本園の教育方針に理解を求め、保護者の入園意欲を高めるよう努めた。また、入園・進級当初から、幼稚園の日々の子ども達の様子を、ホームページを通して、主に写真を多く取り入れながら伝え、懇談会や保育参観、クラス便りを通して本園の教育方針を保護者に理解してもらうよう努めた。

- ② 未就園児クラスの充実

豊中市の幼保一体化（「総合子ども園」への動き）の推進と他園の動きを視野に入れつつ、次年度の年少組への入園に繋がる未就園児確保にも努めたが、昨今の「3歳からの保育料無償化」に伴い、満3歳児クラスを設置する幼稚園や、保育所へ幼児が流れている傾向がみられ本園未就園児教室児の激減傾向に伴い、満3歳児クラス等の検討をはじめた。

- ③ 自己点検・自己評価

本園独自の教育の具体的な内容や、子育て支援および預かり保育等の幼稚園独自の取り組みについて自己点検・評価を行い、保護者や地域住民が理解しやすいよう、積極的な情報提供並びに評価の公表の充実と改善に努めた。

- ④ 課外活動の充実

音楽リズム・英語・絵画造形・体操・剣道・チア・こうめ文庫の各活動は、通常のカリキュラム通り実施することができた。2024年度も順調にスタートできる体制が整ったので、この活動の実態をもっと広く地域にPRして本園への入園意識を高めてもらえるよう努める。また、降園後のサークル活動（サッカー、バレエ、書道、新体操）も定着してきているため、引き続き入会者を募り対外的にもPRしていくたい。

### **3. 財政健全化への取り組み**

収入面では、大学・中学校においては、収容定員を満たす在学生を確保したが、高等学校・幼稚園では収容定員を下回り、財政面で厳しい結果となった。

また、支出面においては、費用対効果を念頭に置いて、物件費および人件費の両面において支出の抑制に努めた。これらの取り組みにより、事業活動収支における経常収支は前年に引き続きプラスとなり、日本私立学校振興・共済事業団の定量的な経営判断指標においても、正常な経営状態となった。しかしながら、今後においては学校教育を取り巻く環境は一層厳しさが増すため、財務体質の更なる改善を推進するとともに、財政基盤の確立と強化に努める。

### **4. 教育環境整備**

茨木・豊中の両キャンパスにおいて、教育環境の整備と充実に努め、学生・生徒の学校生活並びに学習環境の改善に取り組んだ。具体的な整備事業は以下のとおり。

#### **(1) 茨木キャンパス**

(大学)

- ①ICT 教育機器の整備・充実。
- ②通学用スクールバスの一部（2台）更新。
- ③学生会館空調熱源更新工事。
- ④教室設備の改修（F601・K407・E201・A401）。
- ⑤無線アクセスポイントの整備。
- ⑥学生ロッカーの整備。
- ⑦ファイアウォール更新。
- ⑧花と緑に囲まれたガーデンキャンパスの整備・充実。

#### **(2) 豊中キャンパス**

(中学校・高等学校)

- ①豊中キャンパスへの移転 100周年に向けて理科生物講義室、地学の実験室および講義室を普通教室として使用できるように内装のリニューアルを実施した。

以 上

### III. 財務の概要

#### 1. 資金収支計算書、活動区分資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度における本学園の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金のてん末を明らかにするための計算書類です。また、活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を3つの活動区分(教育活動、施設整備等活動、その他の活動)ごとに資金の流れを把握するために作成しています。

##### 【収入の部】

###### ①学生生徒等納付金収入

3,639,188千円となりました。授業料、施設設備費、入学金、教育充実費などが主な収入です。

2023年度の学生・生徒・園児数は3,321名(2023.5.1現在)でした。

###### ②手数料収入

27,362千円となりました。主な内容は入学検定料です。

###### ③寄付金収入

23,073千円となりました。主な内容は「教育環境整備募金」として、新入生及び在学生の保護者、同窓会、同窓生、教職員からの寄付や、同窓会から芸術発表会に対する寄付、中学高校PTAからはクラブコーチ・指導員費用に対する寄付を頂戴しております。

###### ④補助金収入

国庫補助金収入484,106千円、地方公共団体補助金収入(大阪府等)が466,670千円となりました。

###### ⑤付隨事業・収益事業収入

46,676千円となりました。主な内容は公開・課外講座収入、心理教育総合相談センターの相談料収入です。

###### ⑥受取利息・配当金収入

27,458千円となりました。内容は有価証券、定期預金等の利息収入です。

###### ⑦雑収入

223,149千円となりました。主なものは、私立大学退職金財団及び大阪府私学総連合会からの今年度退職者に対する交付金の受け入れ収入です。また、科学研究費補助金間接経費、自動販売機手数料等を別途計上しております。

###### ⑧前受金収入

375,480千円となりました。2024年度入学生からの入学金、授業料、施設設備費、教育充実費が主なものです。

##### 【支出の部】

###### ①人件費支出

教職員の給与、一時金、退職金の支出である人件費は、予算比31,177千円減少し、2,467,036千円となりました。

###### ②教育研究経費支出

各学校の教育充実と研究に係る費用として、1,306,992千円支出しました。

###### ③管理経費支出

法人業務に要する経費、学生生徒園児の募集に要する経費、食堂の経費など547,104千円となりました。

###### ④施設関係支出

施設関係整備として茨木キャンパス学生会館空調熱源更新工事、

豊中キャンパス給水ポンプ等の施設設備の整備などの実施により、109,709千円となりました。

###### ⑤設備関係支出

教室設備改修、ファイアウォール、無線アクセスポイント、スケールバス更新、学生用ロッカーの整備、実習機器の整備や、

図書館における設備図書の購入などがあり、設備関係支出の合計は109,709千円となりました。

###### ⑥資産運用支出

減価償却引当特定資産、退職給与引当資産等の繰入支出が主なものです。

この結果、翌年度に繰越される支払資金は、2,955,699千円となりました。

#### 資金収支計算書

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,620,023,000	3,639,187,650	△ 19,164,650
手数料収入	27,527,000	27,362,060	164,940
寄付金収入	21,169,000	23,073,000	△ 1,904,000
補助金収入	961,670,000	950,775,140	10,894,860
資産売却収入	0	0	0
付隨事業・収益事業収入	46,060,000	46,675,922	△ 615,922
受取利息・配当金収入	26,673,000	27,457,918	△ 784,918
雑収入	215,194,000	223,149,468	△ 7,955,468
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	343,133,000	375,479,625	△ 32,346,625
その他の収入	1,930,827,000	1,969,288,527	△ 38,461,527
資金収入調整勘定	△ 587,541,000	△ 620,730,941	33,189,941
前年度繰越支払資金	2,865,622,646	2,865,622,646	
収入の部合計	9,470,357,646	9,527,341,015	△ 56,983,369

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,498,213,000	2,467,035,905	31,177,095
教育研究経費支出	1,417,752,000	1,306,992,467	110,759,533
管理経費支出	621,088,000	547,103,753	73,984,247
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	120,207,000	109,708,944	10,498,056
設備関係支出	94,846,000	83,919,201	10,926,799
資産運用支出	943,376,000	899,884,970	43,491,030
その他の支出	1,480,123,000	1,603,707,636	△ 123,584,636
資金支出調整勘定	△ 345,481,000	△ 446,710,636	101,229,636
翌年度繰越支払資金	2,610,233,646	2,955,698,775	△ 345,465,129
支出の部合計	9,470,357,646	9,527,341,015	△ 56,983,369

## 活動区分資金収支計算書

(単位 円)

科 目	金額
<u>教育活動による資金収支</u>	
学生生徒等納付金収入	3,639,187,650
手数料収入	27,362,060
特別寄付金収入	6,760,000
経常費等補助金収入	950,775,140
付随事業収入	46,675,922
雑収入	222,596,657
教育活動資金収入計	4,893,357,429
人件費支出	2,467,035,905
教育研究経費支出	1,306,992,467
管理経費支出	546,889,548
教育活動資金支出計	4,320,917,920
差引	572,439,509
調整勘定等	△ 108,422,247
<u>教育活動資金収支差額</u>	464,017,262
科 目	金額
<u>施設整備等活動による資金収支</u>	
施設設備寄付金収入	16,313,000
減価償却引当特定資産取崩収入	600,000,000
施設整備等活動資金収入計	616,313,000
施設関係支出	109,708,944
設備関係支出	83,919,201
減価償却引当特定資産繰入支出	810,003,000
施設整備等活動資金支出計	1,003,631,145
差引	△ 387,318,145
調整勘定等	△ 12,584,182
<u>施設整備等活動資金収支差額</u>	△ 399,902,327
小計(教育活動資金収支差額十施設整備等活動資金収支差額)	64,114,935
科 目	金額
<u>その他の活動による資金収支</u>	
第3号基本金引当特定資産取崩収入	18,501,720
退職給与引当特定資産取崩収入	80,000,000
旅行積立等預り預金からの繰入収入	18,885,109
長期貸付金回収収入	224,000
預り金受入収入	833,186,494
旅行積立等預り収入	175,449,587
自治会費等預り収入	80,913,200
仮払金戻り収入	52,919,808
小計	1,260,079,918
受取利息・配当金収入	27,457,918
過年度修正収入	552,811
その他の活動資金収入計	1,288,090,647
第3号基本金引当特定資産繰入支出	18,851,433
記念事業引当特定資産繰入支出	11,030,000
退職給与引当特定資産繰入支出	60,000,000
旅行積立等預り預金への繰入支出	537
預り金支払支出	829,030,386
旅行積立等預り金支払支出	211,386,589
自治会費等預り金支払支出	81,216,600
仮払金支払支出	52,790,492
小計	1,264,306,037
過年度修正支出	214,205
その他の活動資金支出計	1,264,520,242
差引	23,570,405
調整勘定等	2,390,789
<u>その他の活動資金収支差額</u>	25,961,194
支払資金の増減額(小計十その他の活動資金収支差額)	90,076,129
前年度繰越支払資金	2,865,622,646
翌年度繰越支払資金	2,955,698,775

## 2. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度における本学園の事業活動収入および事業活動支出の内容および均衡の状態を経常的及び臨時の収支に区分して明らかにするための計算書類です。

### 【事業活動収入の部】

事業活動収入4,936,161千円の内訳は、教育活動収入、教育活動外収入、特別収入となっており、教育活動収入(学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入)4,893,807千円、教育活動外収入(受取利息・配当金)23,081千円、特別収入(施設設備寄付金、現物寄付金等)19,273千円となりました。

### 【事業活動支出の部】

事業活動支出は、教職員人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費で、4,898,477千円となりました。

内訳は、教育活動支出(人件費、教育研究経費、管理経費、徴収不能額等)4,891,361千円、特別支出(資産処分差額、その他の特別支出)7,116千円となっております。

人件費については、資金収支計算書の場合退職金が計上されますが、事業活動収支計算書には退職給与引当金繰入額が計上され、2,450,036千円となりました。予算比21,447千円減少した結果、人件費比率は49.8%となりました。

教育研究経費及び管理経費には資金収支計算書の教育研究経費支出や管理経費支出に示される科目の他に、減価償却額が計上されています。徴収不能額等は、未収入金に対する徴収不能額を見積もり、それに対する不足額を繰入計上したものです。

資産処分差額は、科学研究費購入備品の返還分と汚損破損した図書の廃棄等に伴う除却損です。

以上の事業活動収入から事業活動支出を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は+37,684千円となり、予算比252,054千円の収支好転の決算となりました。基本金組入額を控除した当年度収支差額は-160,454千円、翌年度繰越収支差額は-10,122,580千円となりました。

(単位 円)

科 目		予 算	決 算	差 異
<b>事業活動収入の部</b>				
教育活動収支	学生生徒等納付金	3,620,023,000	3,639,220,983	△ 19,197,983
	手数料	27,527,000	27,362,060	164,940
	寄付金	5,658,000	6,909,540	△ 1,251,540
	経常費等補助金	961,670,000	950,775,140	10,894,860
	付隨事業収入	46,060,000	46,675,922	△ 615,922
	雑収入	215,555,000	222,862,994	△ 7,307,994
	教育活動収入計	4,876,493,000	4,893,806,639	△ 17,313,639
<b>事業活動支出の部</b>				
教育活動収支	人件費	2,471,483,000	2,450,035,749	21,447,251
	教育研究経費	1,947,790,000	1,837,872,366	109,917,634
	管理経費	677,647,000	602,855,831	74,791,169
	徴収不能額等	369,000	597,111	△ 228,111
	教育活動支出計	5,097,289,000	4,891,361,057	205,927,943
	教育活動収支差額	△ 220,796,000	2,445,582	△ 223,241,582
<b>事業活動収入の部</b>				
教育活動外収支	受取利息・配当金	24,909,000	23,081,039	1,827,961
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	24,909,000	23,081,039	1,827,961
<b>事業活動支出の部</b>				
教育活動外収支	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	24,909,000	23,081,039	1,827,961
<b>経常収支差額</b>				
特別収支	経常収支差額	△ 195,887,000	25,526,621	△ 221,413,621
<b>事業活動収入の部</b>				
資産売却差額	0	0	0	
その他の特別収入	17,517,000	19,273,324	△ 1,756,324	
<b>特別収入計</b>				
特別収入計	17,517,000	19,273,324	△ 1,756,324	
<b>事業活動支出の部</b>				
特別収支	資産処分差額	6,000,000	6,902,205	△ 902,205
	その他の特別支出	0	214,205	△ 214,205
	特別支出計	6,000,000	7,116,410	△ 1,116,410
	特別収支差額	11,517,000	12,156,914	△ 639,914
( )				
〔予備費〕		( 30,000,000 )		30,000,000
基本金組入前当年度収支差額		△ 214,370,000	37,683,535	△ 252,053,535
基本金組入額合計		△ 144,735,000	△ 198,137,228	53,402,228
当年度収支差額		△ 359,105,000	△ 160,453,693	△ 198,651,307
前年度繰越収支差額		△ 9,962,126,061	△ 9,962,126,061	0
基本金取崩額		0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 10,321,231,061	△ 10,122,579,754	△ 198,651,307
(参考)				
事業活動収入計		4,918,919,000	4,936,161,002	△ 17,242,002
事業活動支出計		5,133,289,000	4,898,477,467	234,811,533

### 3. 貸借対照表

貸借対照表は、当該年度末における本学園の財政状態を明らかにするために作成する計算書類であり、資産の部・負債の部・純資産の部で構成されています。

#### 【資産の部】

本年度末の資産の部合計は、前年度比46,043千円減少し、20,315,575千円となりました。有形固定資産は土地・建物・構築物・教育研究用機器備品等があり、2023年度は経年劣化備品の除却、減価償却等により減少し、一方で学生会館空調熱源更新工事をはじめスクールバスの更新、教室設備の改修、ファイアウォール、無線アクセスポイント、学生用ロッカーの整備、中学・高校の給水システム等の施設設備の整備、備品や図書の購入等を行いましたが、前年度末より397,563千円減少し、12,993,022千円となりました。

特定資産は減価償却引当特定資産等の増額により3,811,541千円となっており、また、その他の固定資産は308,188千円となりました。資産全体に占める固定資産の割合(固定資産構成比率)は84.2%です。

流動資産は前年比155,157千円増の3,202,824千円、流動資産構成比率は15.8%となりました。

#### 【負債の部】

負債の部合計は、前年度比83,726千円減少し、1,914,536千円となりました。前受金・預り金の減少によるものです。固定負債構成比率は4.6%、流動負債構成比率4.9%となりました。

#### 【純資産の部】

当年度の基本金組入額198,137千円を含む本年度末の基本金総額は28,523,619千円となり、翌年度繰越収支差額を合わせた純資産の部合計は18,401,039千円となりました。

(単位 円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	( 17,112,751,112 )	( 17,313,951,065 )	( △ 201,199,953 )
有形固定資産	< 12,993,021,825 >	< 13,390,585,014 >	< △ 397,563,189 >
土地	1,679,623,906	1,679,623,906	0
建物	8,234,087,029	8,508,060,071	△ 273,973,042
構築物	359,005,491	400,779,263	△ 41,773,772
教育研究用機器備品	404,122,093	480,091,049	△ 75,968,956
管理用機器備品	20,098,613	21,102,364	△ 1,003,751
図書	2,179,482,312	2,175,210,492	4,271,820
車両	116,602,381	125,717,869	△ 9,115,488
特定資産	< 3,811,541,230 >	< 3,614,303,355 >	< △ 197,237,875 >
第3号基本金引当特定資産	422,794,749	422,794,749	0
記念事業引当特定資産	11,030,000	0	11,030,000
退職給与引当特定資産	866,547,685	887,209,623	△ 20,661,938
減価償却引当特定資産	2,511,168,796	2,304,298,983	206,869,813
その他の固定資産	< 308,188,057 >	< 309,062,696 >	< △ 874,639 >
施設利用権			
電話加入権	2,222,896	2,222,896	0
有価証券	300,804,669	301,036,710	△ 232,041
長期貸付金	4,990,945	5,633,543	△ 642,598
預託金	169,547	169,547	0
流動資産	( 3,202,823,804 )	( 3,047,666,604 )	( 155,157,200 )
現金預金	2,955,698,775	2,865,622,646	90,076,129
旅行積立等預り預金	45,643,940	64,528,512	△ 18,884,572
未収入金	196,364,748	109,158,514	87,206,234
前払金	5,050,657	8,161,932	△ 3,111,275
仮払金	65,684	195,000	△ 129,316
資産の部合計	20,315,574,916	20,361,617,669	△ 46,042,753
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	( 928,954,240 )	( 954,962,573 )	( △ 26,008,333 )
長期未払金	37,962,100	46,703,940	△ 8,741,840
退職給与引当金	890,992,140	908,258,633	△ 17,266,493
流动負債	( 985,581,397 )	( 1,043,299,352 )	( △ 57,717,955 )
未払金	452,033,001	428,975,369	23,057,632
前受金	375,479,625	424,187,125	△ 48,707,500
預り金	158,068,771	190,136,858	△ 32,068,087
負債の部合計	1,914,535,637	1,998,261,925	△ 83,726,288
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	( 28,523,619,033 )	( 28,325,481,805 )	( 198,137,228 )
第1号基本金	27,742,824,284	27,608,687,056	134,137,228
第3号基本金	422,794,749	422,794,749	0
第4号基本金	358,000,000	294,000,000	64,000,000
繰越収支差額	( △ 10,122,579,754 )	( △ 9,962,126,061 )	( △ 160,453,693 )
翌年度繰越収支差額	△ 10,122,579,754	△ 9,962,126,061	△ 160,453,693
純資産の部合計	18,401,039,279	18,363,355,744	37,683,535
負債及び純資産の部合計	20,315,574,916	20,361,617,669	△ 46,042,753

#### 4. 2019年度～2023年度の経年変化

##### (1) 資金収支計算書

(単位 円)

収入の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	3,614,686,877	3,835,601,045	3,920,638,542	3,848,656,348	3,639,187,650
手数料収入	45,436,544	46,503,174	38,069,360	32,474,980	27,362,060
寄付金収入	36,580,710	43,107,440	21,219,390	14,732,160	23,073,000
補助金収入	1,006,689,308	1,294,319,751	979,700,417	1,001,291,140	950,775,140
資産売却収入	201,000,000	6,280,841	445,306	569,504	0
付随事業・収益事業収入	33,386,690	30,522,952	44,934,513	45,805,426	46,675,922
受取利息・配当金収入	23,171,576	25,117,457	26,619,396	26,672,487	27,457,918
雑収入	213,966,375	130,816,055	73,081,334	122,480,424	223,149,468
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	526,997,750	521,419,806	459,460,250	424,187,125	375,479,625
その他の収入	2,153,823,504	2,123,402,407	1,992,864,927	1,667,639,817	1,969,288,527
資金収入調整勘定	△ 782,459,291	△ 916,056,354	△ 588,744,536	△ 568,668,859	△ 620,730,941
前年度繰越支払資金	2,205,094,743	2,123,767,947	2,354,932,647	2,757,091,916	2,865,622,646
収入の部合計	9,278,374,786	9,264,802,521	9,323,221,546	9,372,932,468	9,527,341,015

支出の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	2,548,265,138	2,416,026,373	2,305,624,174	2,430,819,762	2,467,035,905
教育研究経費支出	1,160,314,053	1,436,678,223	1,266,548,627	1,434,194,688	1,306,992,467
管理経費支出	419,860,620	428,386,148	484,180,295	557,466,228	547,103,753
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	559,882,397	602,440,472	275,683,872	119,024,155	109,708,944
設備関係支出	167,555,114	187,898,780	177,086,295	95,623,728	83,919,201
資産運用支出	1,195,484,060	771,299,008	945,045,964	780,183,212	899,884,970
その他の支出	1,490,779,749	1,401,722,071	1,372,406,437	1,472,540,584	1,603,707,636
資金支出調整勘定	△ 387,534,292	△ 334,581,201	△ 260,446,034	△ 382,542,535	△ 446,710,636
翌年度繰越支払資金	2,123,767,947	2,354,932,647	2,757,091,916	2,865,622,646	2,955,698,775
支出の部合計	9,278,374,786	9,264,802,521	9,323,221,546	9,372,932,468	9,527,341,015

## (2)活動区分資金収支計算書

(単位 円)

教育活動による資金収支	科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	学生生徒等納付金収入	3,614,686,877	3,835,601,045	3,920,638,542	3,848,656,348	3,639,187,650
収 入	手数料収入	45,436,544	46,503,174	38,069,360	32,474,980	27,362,060
	経常費等補助金収入	902,435,308	983,823,451	965,019,417	987,908,140	950,775,140
	教育活動資金収入計	4,813,336,320	5,059,369,742	5,048,547,575	5,043,101,020	4,893,357,429
	支出	人件費支出	2,548,265,138	2,416,026,373	2,305,624,174	2,430,819,762
教育活動による資金収支	教育研究経費支出	1,160,314,053	1,436,678,223	1,266,548,627	1,434,194,688	1,306,992,467
	調整勘定等	50,469,268	△ 53,154,250	△ 37,010,548	37,632,181	△ 108,422,247
	科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
施設整備等活動による資金収支	施設設備補助金収入	104,254,000	310,496,300	14,681,000	13,383,000	0
	施設整備等活動資金収入計	236,714,710	819,057,451	127,841,957	121,067,609	616,313,000
	支出	施設関係支出	559,882,397	602,440,472	275,683,872	119,024,155
	設備関係支出	167,555,114	187,898,780	177,086,295	95,623,728	83,919,201
	施設整備等活動資金支出計	1,129,831,511	1,288,245,252	954,184,167	714,647,883	1,003,631,145
	差引	△ 893,116,801	△ 469,187,801	△ 826,342,210	△ 593,580,274	△ 387,318,145
	調整勘定等	65,162,289	△ 125,390,031	258,596,803	8,477,512	△ 12,584,182
その他の活動による資金収支	施設整備等活動資金収支差額	△ 827,954,512	△ 594,577,832	△ 567,745,407	△ 585,102,762	△ 399,902,327
	科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	収入	借入金等収入	0	0	0	0
	小計	2,006,693,958	1,365,591,657	1,504,178,887	1,500,483,444	1,260,079,918
	受取利息・配当金収入	23,171,576	25,117,457	26,619,396	26,672,487	27,457,918
	その他の活動資金収入計	2,030,641,008	1,391,818,489	1,532,125,049	1,528,997,284	1,288,090,647
	支出	借入金等返済支出	0	0	0	0
	小計	2,019,474,059	1,302,639,090	1,508,691,374	1,495,096,872	1,264,306,037
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	調整勘定等	94,990	11,438,385	△ 8,712,930	1,480,557	2,390,789
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		△ 81,326,796	231,164,700	402,159,269	108,530,730	90,076,129
前年度繰越支払資金		2,205,094,743	2,123,767,947	2,354,932,647	2,757,091,916	2,865,622,646
翌年度繰越支払資金		2,123,767,947	2,354,932,647	2,757,091,916	2,865,622,646	2,955,698,775

## (3)事業活動収支計算書

(単位 円)

科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動 収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	3,614,686,877	3,835,601,045	3,920,638,542	3,848,656,348
	手数料	45,436,544	46,503,174	38,069,360	32,474,980
	寄付金	4,630,425	33,845,362	14,098,037	8,725,195
	経常費等補助金	902,435,308	983,823,451	965,019,417	987,908,140
	付隨事業収入	33,386,690	30,522,952	44,934,513	45,805,426
	雑収入	213,898,068	133,645,723	71,902,797	143,413,336
	教育活動収入計	4,814,473,912	5,063,941,707	5,054,662,666	5,066,983,425
	事業活動支出の部				
	人件費	2,528,287,177	2,372,003,920	2,313,904,295	2,444,338,521
教育活動 外 収支	教育研究経費	1,609,090,191	1,916,236,939	1,770,289,714	1,957,911,851
	管理経費	474,089,446	483,547,514	540,727,682	613,109,562
	徴収不能額等	1,266,423	384,643	881,652	369,330
	教育活動支出計	4,612,733,237	4,772,173,016	4,625,803,343	5,015,729,264
	教育活動収支差額	201,740,675	291,768,691	428,859,323	51,254,161
	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	21,599,070	23,406,042	24,935,235	24,908,583
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0
	教育活動外収入計	21,599,070	23,406,042	24,935,235	24,908,583
	事業活動支出の部				
特別 収支	借入金等利息	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	21,599,070	23,406,042	24,935,235	24,908,583
	経常収支差額	223,339,745	315,174,733	453,794,558	76,162,744
	事業活動収入の部				
	資産売却差額	920,500	6,222,845	393,186	0
	その他の特別収入	139,126,032	325,769,584	38,208,699	35,595,699
	特別収入計	140,046,532	331,992,429	38,601,885	35,595,699
	事業活動支出の部				
特別 支 出	資産処分差額	12,397,059	2,804,951	5,777,566	6,406,485
	その他の特別支出	49,248	743,720	421,056	122,291
	特別支出計	12,446,307	3,548,671	6,198,622	6,528,776
	特別収支差額	127,600,225	328,443,758	32,403,263	29,066,923
	基金組入前当年度収支差額	350,939,970	643,618,491	486,197,821	105,229,667
	基金組入額合計	△ 459,652,432	△ 650,498,953	△ 367,261,176	△ 132,072,699
	当年度収支差額	△ 108,712,462	△ 6,880,462	△ 118,936,645	△ 26,843,032
	前年度繰越収支差額	△ 9,938,626,750	△ 10,047,339,212	△ 10,054,219,674	△ 9,935,283,029
	基本金取崩額	0	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△ 10,047,339,212	△ 10,054,219,674	△ 9,935,283,029	△ 9,962,126,061
(参考)					
事業活動収入計		4,976,119,514	5,419,340,178	5,118,199,786	5,127,487,707
事業活動支出計		4,625,179,544	4,775,721,687	4,632,001,965	5,022,258,040

(4)貸借対照表

(単位 円)

科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
固定資産	16,768,328,715	16,992,722,361	17,293,394,649	17,313,951,065	17,112,751,112
流動資産	2,474,747,693	2,938,138,741	3,002,599,504	3,047,666,604	3,202,823,804
資産の部合計	19,243,076,408	19,930,861,102	20,295,994,153	20,361,617,669	20,315,574,916
固定負債	1,034,289,705	1,005,393,313	1,013,799,482	954,962,573	928,954,240
流動負債	1,080,476,938	1,153,539,533	1,024,068,594	1,043,299,352	985,581,397
負債の部合計	2,114,766,643	2,158,932,846	2,037,868,076	1,998,261,925	1,914,535,637
基本金	27,175,648,977	27,826,147,930	28,193,409,106	28,325,481,805	28,523,619,033
繰越収支差額	△ 10,047,339,212	△ 10,054,219,674	△ 9,935,283,029	△ 9,962,126,061	△ 10,122,579,754
純資産の部合計	17,128,309,765	17,771,928,256	18,258,126,077	18,363,355,744	18,401,039,279
負債及び純資産の部合計	19,243,076,408	19,930,861,102	20,295,994,153	20,361,617,669	20,315,574,916

## 5. 活動区分資金収支計算書関係比率、事業活動収支計算書関係比率の推移

活動区分資金収支計算書関係比率

(単位 %)

No.	比率名	算出方法	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	評価	傾向	全国平均 (医歯系法 人を除く)	同規模 法人 平均	評価 基準
1	教育活動資金収支差額 比率	教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	15.3	14.3	18.9	13.1	9.5	×	↓	13.4	11.9	△

事業活動収支計算書関係比率

(単位 %)

No.	比率名	算出方法	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	評価	傾向	全国平均 (医歯系法 人を除く)	同規模 法人 平均	評価 基準
1	人件費比率	人 件 費 経 常 収 入	52.3	46.6	45.6	48.0	49.8	×	→	50.9	48.7	▼
2	人件費依存率	人 件 費 学生生徒等納付金	69.9	61.8	59.0	63.5	67.3	○	→	69.3	97.2	▼
3	教育研究経費比率	教 育 研究 経 費 経 常 収 入	33.3	37.7	34.9	38.5	37.4	×	→	36.1	39.4	△
4	管理経費比率	管 理 経 費 経 常 収 入	9.8	9.5	10.6	12.0	12.3	×	↓	8.5	8.0	▼
5	借入金等利息比率	借 入 金 等 利 息 経 常 収 入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	○	→	0.1	0.1	▼
6	事業活動収支差額比率	基本金組入前當年度収支差額 事業活動収入	7.1	11.9	9.5	2.1	0.8	×	↓	4.6	4.4	△
7	基本金組入後収支比率	事 業 活 動 支 出 事業活動収入 - 基本金組入額	102.4	100.1	97.5	95.5	95.4	○	↑	104.7	103.0	▼
8	学生生徒等納付金比率	学 生 生 徒 等 納 付 金 経 常 収 入	74.7	75.4	77.2	75.6	74.0	-	-	73.5	50.1	~
9	寄付金比率	寄 付 金 事業活動収入	0.8	0.9	0.7	0.6	0.5	×	↓	1.9	1.2	△
10	経常寄付金比率	教 育 活 動 収 支 の 寄 付 金 経 常 収 入	0.1	0.7	0.3	0.2	0.1	×	↓	1.4	0.9	△
11	補助金比率	補 助 金 事業活動収入	20.2	23.9	19.1	19.5	19.3	○	↓	14.4	14.5	△
12	経常補助金比率	教 育 活 動 収 支 の 補 助 金 経 常 収 入	18.7	19.3	19.0	19.4	19.3	○	→	14.2	14.1	△
13	基本金組入率	基 本 金 組 入 額 事業活動収入	9.2	12.0	7.2	2.6	4.0	×	↓	8.9	7.2	△
14	減価償却額比率	減 価 償 却 額 経 常 支 出	10.9	11.2	12.0	11.5	12.0	-	-	11.5	10.0	~
15	経常収支差額比率	經 常 収 支 差 額 経 常 収 入	4.6	6.2	8.9	1.5	0.5	×	↓	4.2	3.7	△
16	教育活動収支差額比率	教 育 活 動 収 支 差 額 教 育 活 動 収 入 計	4.2	5.8	8.5	1.0	0.0	×	↓	2.3	2.1	△

\* 経常収入=教育活動収入計 + 教育活動外収入計

\* 評価の欄は同規模法人と比べての評価である。また、傾向の欄は、良い方向か悪い方向かの方向性を示す(数値の上下ではない)。

\* 全国平均、同規模法人平均は2021年度決算の数字によるデータである。

\* 2023年度版「今日の私学財政(大学・短期大学編)」日本私立学校振興・共済事業団編による。

\* 評価基準

△:高い値が良い ▼:低い値が良い ~:どちらともいえない

## 6. 貸借対照表関係比率の推移

(単位: %)

No.	比率名	算出方法	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	評価	傾向	全国平均 (医歯系法 人を除く)	同規模 法人 平均	評価 基準
1	固定資産構成比率	固定資産 総資産	87.1	85.3	85.2	85.0	84.2	×	↑	86.1	83.1	▼
2	流動資産構成比率	流動資産 総資産	12.9	14.7	14.8	15.0	15.8	×	↑	13.9	16.9	△
3	固定負債構成比率	固定負債 総負債 + 純資産	5.4	5.0	5.0	4.7	4.6	○	↑	6.5	6.9	▼
4	流動負債構成比率	流動負債 総負債 + 純資産	5.6	5.8	5.0	5.1	4.9	○	↑	5.3	5.3	▼
5	内部留保資産比率	運用資産 - 総負債 総資産	16.5	16.7	21.0	23.5	25.4	×	↑	28.2	27.8	△
6	運用資産余裕比率	運用資産 - 外部負債 経常支出	1.1	1.1	1.3	1.3	1.3	×	↑	2.0	1.6	△
7	純資産構成比率	純資産 総負債 + 純資産	89.0	89.2	90.0	90.2	90.6	○	↑	88.3	87.8	△
8	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 総負債 + 純資産	△ 52.2	△ 50.4	△ 49.0	△ 48.9	△ 49.8	×	→	△ 15.5	△ 20.1	△
9	固定比率	固定資産 純資産	97.9	95.6	94.7	94.3	93.0	○	↑	97.6	94.6	▼
10	固定長期適合率	固定資産 純資産 + 固定負債	92.3	90.5	89.7	89.6	88.5	×	↑	90.9	87.7	▼
11	流動比率	流動資産 流動負債	229.0	254.7	293.2	292.1	325.0	○	↑	263.2	321.9	△
12	総負債比率	総負債 総資産	11.0	10.8	10.0	9.8	9.4	○	↑	11.7	12.2	▼
13	負債比率	総負債 純資産	12.3	12.1	11.2	10.9	10.4	○	↑	13.3	13.9	▼
14	前受金保有率	現金預金 前受金	403.0	451.6	600.1	675.6	787.2	○	↑	372.0	533.8	△
15	退職給与引当特定資産 保有率	退職給与引当特定資産 退職給与引当金	98.2	99.9	99.0	97.7	97.3	○	→	73.3	57.1	△
16	基本金比率	基本金 基本金要組入額	99.5	99.3	99.4	99.4	99.5	○	→	97.2	97.4	△

※ 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券

※ 外部負債 = 借入金 + 学校債 + 未払金 + 手形債務

※ 評価の欄は同規模法人と比べての評価である。また、傾向の欄は、良い方向か悪い方向かの方向性を示す(数値の上下ではない)。

※ 全国平均、同規模法人平均は2021年度決算の数字によるデータである。

※ 2023年度版「今日の私学財政(大学・短期大学編)」日本私立学校振興・共済事業団編による。

※ 評価基準

△:高い値が良い ▼:低い値が良い ~:どちらともいえない

